



### 幼稚園の先生

再び岩手県大槌町へ⑦

下松の旗岡団地にあ  
る暁の星幼稚園はカト  
リック系の幼稚園だ。  
先日、マリア祭という

に訪れた。

廊下で出会う園児に「おはよう」と声を掛けると、制服を着た可愛い子供は「おはようございます」と元気に応えてくれる。まさに汚れなき天使である。



女の子には編み物やビーズのコーナーが人気

私の長男もこの幼稚園に通ったが、クリスマス会に長男が出演するというので家族全員で見に行った。しかし出番になっても脇のカーテンを握りしめ、ステージには出て来ない。この子は将来、何になるのだろうかとか大笑いしたが、今では中学校の教師、歳月の流れは本当に早いものだ。

人、防府の暁の星幼稚園から一人。団長の柴田神父が山口の天使幼稚園の講師でもあり、神父の呼びかけに、毎回、何人かの先生が参加している。



一緒に弁当を食べるのもボランティアの仕事

小学校低学年の学童保育の手伝いは幼稚園の先生にとっては仕事そのものだ。今回、二日間にわたり朝九時から午後三時までの保育をすべて任せられ、幼稚園の先生がそのほとんどの準備をした。



幼稚園の先生の周りに子供は集まる

心させられる。聖書に、イエスに触れようとすると子供たちを弟子が妨げるとイエスは弟子を叱り「子どものように神の国を受け入れる人でなければ神の国には入れない」とある。

そして学童保育の最後の時間は仮設校舎の間にある遊具やその周囲を学生や幼稚園の先生が中心になって子供と一緒に走り回る。子供たちは幼稚園の先生や学生にまわりつく。そこには被災の暗さは全く感じられない。子供たちの弁当を見て、お母さんの愛情が伝わって来る。

午後幼稚園の先生に代わって、主婦のボランティアによる山口県名物の外郎づくり。子供と一緒にあずき、抹茶、ココア味の外郎を作って食べる。

汚れなき子供たちは疑うことなく、素直に神を、親を、教師を信頼している。幼稚園の先生はその子供たちのために準備し、やさしく話しかける。改めて幼児教育の重要性と先生たちの子供に対する姿に感動、まさに天職だ。昼休みには子供たちと一緒に持参した「むすび」を食べる。「津波の時、どうだった？」と聞きたい気持ちになるが、こちらの都合での質問は止め